

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 08010040

政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8	子育て・子育ての充実	事業優先度	B		
単位施策	2	「子育て」支援の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	保育所地域活動事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	8 保育所		
事業主体	雄武町		関係課	#N/A		
事業指標	利用延べ人数		関係例規・法令名	#N/A		
事業目標	1200人		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加 住民協働	有	高齢者、小学生との交流	関係個別計画名	有 次世代育成支援行動計画		

全 体 計 画		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	保育所地域活動事業	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児講座	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児講座	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児講座	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児講座	高齢者、小学生との交流事業 地域子育て家庭への育児講座
	事業費(千円)	2,750	550	550	550	550
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	2,750	550	550	550	550	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	1,011	485	526	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	1,011	485	526			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		高齢者、小・中・高校生との世代間交流の実施 育児に関する情報提供等実施 (保育懇談会、親子レクリエーション) (実績:1,779人) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	高齢者、小・中・高校生との世代間交流の実施 育児に関する情報提供等実施 (保育懇談会、親子レクリエーション) (実績:1,852人) ※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1200人	1200人	1200人	1200人
		年度達成率	88%	96%	0%	0%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	18%	37%	37%	37%
	事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆			

事業名	保育所地域活動事業	評価者 管理職 職氏名	保育所長	中村 文隆
		評価者 作成者 職氏名	児童保育係長	斉藤 智美

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	入所児・保護者・子育て中の親	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	事業への参加者数	
【抱える課題やニーズは】	保育所は、他の世代と接する機会や、町民が保育の様子を見る機会がほとんどない。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	交流機会と参加者の確保。保育内容が見られる環境づくり。	① 延べ参加者数	目標年度 平成26年度	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	他の世代との交流などを通して、特に年長児の自覚と自信や意欲を育てると共に、町民に保育活動等を知ってもらう機会となるようにする。		目標値 1,200人	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	世代間交流	長寿クラブの誕生会での遊戯披露や生活発表会等で相互訪問を行った。また、小学生、中学生、高校生とは交流事業や就業体験等で交流を深めた。	実績値 1,852人	
			達成度 154.3%	
	地域子育て家庭への育児支援		入所児の保護者には懇談会や保育所行事(親子レク、運動会、発表会等)などで入所児の様子を伝えとて共に、保護者同士の交流の場となった。地域の子育て中の方々などには、保育所開放等入所児の様子を見学してもらい交流の場を設け、保育所への理解を深められた。	②
				目標年度 平成26年度
目標値				
実績値				
達成度	#DIV/0!%			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	世代間交流は、児童の育成に大きな役割を持つとともに、高齢の方々や小・中・高校生にも喜ばれている。また、保護者や地域を巻き込んだ子育て支援として効果が高い。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	小・中・高校生においては乳幼児とふれあう機会が少なく、交流後はとても楽しかった、良い経験ができた、保育士の仕事に興味をもったなどの感想が多く聞けた。また、入所児童にとっても交流そのものや保育所以外での活動は良い経験になる。保護者や地域の方々に保育所の役割についての理解と、関わりを深めることができた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	教材等については、できるだけ他の事業と併用が図られるよう工夫して事業費を抑えている。
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

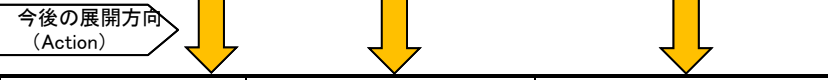
公平	判断の理由	長寿クラブ員や施設利用者、あるいは保護者など、事業ごとに対象範囲を明確にすることにより公平性を保つ。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
子ども達にとって、地域の人や他世代との交流は、良い刺激となり、心を育てるよい経験となっている。保護者や地域の子育て家庭には行事や保育所開放などで情報提供や保育所への理解を深めてもらった。		



継続/現状維持		
他世代との交流が少ない今、関係機関と連携しながら、今後も事業を進めていきたい。保護者、地域の子育て家庭においては、子育て向上につながるよう内容の検討、充実を図りながら支援していく。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止